

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム 藤苑 (あかね)	評価実施年月日	平成20年3月24日
評価実施構成員氏名	反町 純子 山田 紘 村上 直子		
記録者氏名	村上 直子	記録年月日	平成20年3月27日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

☐ は外部評価項目

ユニット あかね

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
☐ 1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	伏古福祉会の理念をグループホームの理念としているが、ユニット毎にも独自の理念もあげている。又、毎年各ユニットで今必要な事、求められていることを職員全員で考えその年の目標としている。	○	理念を踏まえた各ユニットの目標は職員全員で毎年各フロア会議で現在入居なさっている利用者又は職員の状態を考えながら作成している。今年度のあかねの目標は初心に返り職員一丸となり、あかねの皆さん一人ひとりと関り個々の思いを引き出し思いに添ったケアを目指す。
☐ 2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	年度末の会議で今年度の反省と来年度の目標を話し合い、毎月の例会で確認しあっており、根底にある理念を見失っていないか常に前向きに取り組んでいる。	○	ケアに対する意識・考え方が全職員が同じ方向性を持って対応できるように取り組んでいる。
☐ 3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族会、運営推進委員会、理事会に図りいろいろな意見を頂く中で、訴え理解してもらっていると思う。	○	今後は広報活動を通して地域にも浸透していくように活動を活発にしていきたい。
2. 地域との支えあい			
☐ 4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	この5年間の中で、近所の方々には色々な場面で助けていただいている。毎年一番に咲いた花を持ってきてくださる方もいらっしゃる感謝の気持ちで一杯である。散歩の際はお年寄り全員で大きな声で挨拶し、立ち話に花を咲かせている。	○	当苑の入居者も地域の一員である事を職員も念頭に置き、いくつになっても社会性を失わないように支援していきたい。
☐ 5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	代表は自治会の役員でもあり、町内会長は法人の理事でもあるので、町内会の活動にはできるだけ参加している。グループホームの夏祭りでは、いつものお礼として来てくれる町内会の方々に食事を提供し、グループホームをより知ってもらう機会としている。	○	今後は日常的にも地域の方々との交流を深め苑庭が交流の場になるようにしていきたい。

ユニット あかね

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	上記の取り組みはしてきたが、見学者や電話での相談が増えていく中で、地域の高齢者の状況をもっと把握していく必要性を感じている。職員との話し合いの中で気楽に立ち寄り、安心して身内を預けられるところがあるということを知っていただくような取り組みをしていくことを、来年度の計画にあげている。	○	・同事業所の認知症対応型通所介護や居宅支援事業所との連携を図り、定期的な勉強会(事例報告など)を行う中で地域でのグループホームの役割を明確にしていく。また、広報誌などで行事などにも参加を呼びかけ気楽に遊びに来ていただけるような開かれたグループホームを目指していく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	すぐに改善できる事はすぐに行っている。地域に向けての広報誌の発行については、今年度も実施されなかった。	○	何故実施されなかったかを話し合ったところ目的意識が明確になされていなかったことが挙げられ、今年度は地域での取り組みの充実を図ることが事業計画の最優先に挙げた事もあり、それに伴い広報誌発行の実現に繋げていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議も定着してきており、意見交換も活発化してきている。そこで話し合ったことは必ず例会に持ち寄り、意見を真摯に受け止めたり、具体的な活動に活かしている。	○	運営推進委員の構成員にもっと地域の方に入って頂き、地域の情報を得たいと思っている。20年度から2名の地域の方の参加が決定している。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当者との連絡は頻繁に行っているが、サービスの質の向上に関して共に取り組んでいるという実感はない。	○	区からの情報をもっと取り入れ連携を強める事で、開かれた施設へ繋げていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	成年後見制度に関しては研修にも参加し、ある程度の理解をしているが、今まで入居されている方々が必要性が無い為具体的なことはあまりわかっていないと思う。また権利擁護に関しては、グループホーム協議会で出されたものを玄関に掲示し職員にも浸透している。	○	今後必要な人には、勿論活用して行きたいと思っている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修にも参加しており、絶対あってはならないことではあるが、誰もがストレスを抱えると自分の行動が分からなくなる事もありえることを念頭に置き職員に関してはストレス発散の場を設けたり話し合う機会を多く持つようにしている。	○	現在抱えているストレスを気楽に常に言える環境にし、失敗してしまったことも隠さず話せるような職員間の関係を築いている。
4. 理念を実践するための体制				

ユニット あかね

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約を結ぶ前にも何回か利用者・ご家族とお会いし、当苑の理念・方針を話、理解して頂く様にしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	直接訴える事が出来る方々の意見は日々の話の中で不満を貯めないような声かけを行っていると思う。又、すぐにできないことは、ご本人が納得できるように徹底して話す機会を設けている。また、訴えることが出来ない方に対しても表情・しぐさを見極め対応を行っている。	○	ほぼ毎日来てくれているボランティアの方々にも協力してもらい不満を聞きだすようにしている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月のお便りの中で報告させていただいている。	○	行事等で写した写真やお小遣い帳の写しも送付しているが新しい職員の写真や担当者の写真もコメントと一緒に送るようにする。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情箱を各ユニットごとにおいても意見が入っている事が無い為、苦情箱は置かないことになったが、外部評価のアンケートを参考にし、年一度家族会総会の前にアンケートを発送し、無記名でいろいろな意見を書いていただく機会を設けている。	○	年1度の総会時だけではなく、家族と職員の交流会を開く事になっている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員は自由に意見を少なくとも管理者には言える環境にあると思う。	○	年に一度が運営者との話し合いの機会を設定し、今職員が悩んでいる事や、考えている事を話す機会を設けて行きたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	常に職員体制を日勤で4～5名確保しているので柔軟な対応は可能である。		

ユニット あかね

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動に関しては年に2ユニット1名を限度にしている。離職に対しても話し合いの場を多く持ち、職員が辞めないように努力しているが今年度はいつもに無く離職者が多かった。	○	運営者・管理者と離職した原因を考えていく中で、各立場でも考え改善できる事は努力し、職員一人一人が満足して働ける環境にしてい く。また、職員のモチベーションを上げる為にも常に自分たちの仕事を 明確にし目標を目指して一致団結していくことが利用者にも通じ、より 良い関係を築くことに繋がるということを認識していく。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	同法人内の交流会での研修に参加したり、新人で入った時はすぐにスタッフ研修に参加させ、基本的な知識を学んでもらう。また、今かかえている問題にあった研修には必ず参加している。新人につく担当を替えることにより中堅職員としての育成も同時に行う。	○	今後は当苑独自の人事考課も考慮し、職員が今目指すところを各人明確にし、良いところや今後も継続してほしい所も評価し、人材の育成に力を入れて行きたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	東区・白石区にあるグループホームとの交流会を何回かに分けて行い、合同で講師を招き、講演をおこなった。	○	今後も継続して交流を深めていき交流会の仲間を増やして行きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	行きたい研修には出来る限り行ってもらい、各階に休憩室を設置し休憩時間を1時間とし入居者と離れた場所で休んでももらえるようにしている。	○	新しい職員が増えた中で、何でも話し合える雰囲気を作っていき会食などを利用して話す場を多く持つように特に今年度を職員間の信頼関係を気づき仲間意識を強めて行きたい。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	グループホーム全体の活動の評価や一人一人の職員の価値を認めていく中で職員がやりがいを持って働いてくれている感謝を管理者を通して話している。職員にとっても居心地の良い場所となるように出来る限り職員の意思を尊重している。	○	運営者は職員と個々に話し合う時間をもっと持ち、グループホーム全体の今後の発展のために今しなければならないことを考え一緒に向上したいという気持ちを職員に伝えていく。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				

ユニット あかね

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	責任者・計画作成者を取り合えず担当にし、話を聞く機会を多く持ち本人の状態を見極めることから入り、まず安心してもらえるような関りをしている。	○	情報収集した事を共有できるように周知・討議を行い柔軟な対応ができるように取り組んでいる。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族に対しては管理者が責任を持ち、安心して身内を預けられると思ってもらえるまで話をする機会を持つようにしている。	○	ご家族のご本人に対する思いを受け止めご家族が何を一番望んでいるかを見極め期待に沿えるように家族と共にご本人を支援している事を理解していただく
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居希望のご家族にはまず、見学に来ていただき、できればご本人にもきていただくようにしている。ご本人に当苑を見ていただく中でご本人の気持ちを見極め、まだここに入所するには早いと思った方には通所サービスや訪問サービスを紹介したこともある。	○	ご家族の相談にも時間をとり、今何がご本人にとって必要か最善な方法を一緒に考え相談に乗っている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所の際はご家族にも確認の上歓迎会を開かせていただき、入居者の皆さんや職員を紹介し、最初の2週間くらいは、ご家族にも出来るだけ来苑していただくように話している。	○	第一段階の見極めの時期は常に柔軟な対応が出来るように職員の思い込みにならないように情報や家族との話を常に念頭において見極めていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	あかねの皆さんの中に居ると心がなごみ、職員にとっても居心地の良い場所になっている。日常的には掃除の仕方や裁縫を習ったり、漬物づけの時期には色々な方々のつ方を聞きながら漬物付けをおこなっている。	○	本人が居心地良く過ごすためになにが大切かを常に職員間で話し合い一人ひとりがリラックスして生活してもらえるような支援を目指している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には色々な場面で助けて頂いている。例えば、職員ではどうしても納得できないとご本人が訴える時には皆さん快く電話や来苑してくれ、ご本人と話をしてくれている。	○	ご家族も好きな事がいえる環境に少しずつなっていると思っている。

ユニット あかね

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に 努め、よりよい関係が築いていけるよう に支援している。	入所する前の本人との関係を聞か中で、まだどうしても本人 をうけいれることができず、グループホームに来る事も苦痛 であるというご家族がいるが、ご自分から来て見ようと思 うまで無理をしなくても良い事を伝え、ご本人とご家族の間に 職員が立ち、出来るだけ早くよりよい関係になられるように 職員との連絡は常にとっている。	○	殆どの利用者は本人、家族の関係は良好で毎日来苑する家族もい らっしゃる。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの 人や場所との関係が途切れないよう、支援 に努めている。	兄弟・親戚・友達が常に自由に出入りなさっている。	○	ご家族にも友達関係が途絶えないように協力して頂き、遊びに来てい ただいている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとり が孤立せずに利用者同士が関わり合い、 支え合えるように努めている。	あかねの場合は常に行動を共にする方が5名いらしゃるが その中で仲良しがいていろいろなトラブルがあるが、職員す ぐに中に入るのではなくて、様子を見守るというようにして いる。そうすることで社会性が保たれ自発性が出ていうよう に思われる。しかし、一人が孤立した場合はすぐに職員が 寄り添い、淋しい思いにならないようには支援している。	○	介助を必要な利用者に他の利用者が食事介助をして下さったり、食 べこぼし等の後始末をして下さったりしている。このような関係は維持 していきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続 的な関わりを必要とする利用者や家族に は、関係を断ち切らないつきあいを大切に している。	あかねの場合は契約終了となった方で、特養に入所なさ った方が2名いるが、その方の所には職員がつねに顔を見に 行っている。	○	今後も今まで築いた関係を継続していきたい。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意 向の把握に努めている。困難な場合は、本 人本位に検討している。	ユニット毎の理念にもあげているように一人ひとりの希望や 意向に添って支援している。また、その支援が職員の思い 込みになっていないか一方的なものになっていないか常に 検討している。	○	常に中心となるのは本人の思いであることを、忘れず自分から表現 出来ない方への対応も表情・行動を見極めて本人の気持ちに添って いるか確認しながら援助している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし 方、生活環境、これまでのサービス利用の 経過等の把握に努めている。	センター方式を取り入れ、ご家族にも詳しく生活歴を書いて 頂き、又お話のできる方には職員が昔の事を聞か中で暮し 方や生活環境を把握している。		

ユニット あかね

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日誌にはその日の生活状態を書き、毎月のケースには一ヶ月の状態をまとめている。又一人ひとりに担当をつけ個々人を常に総合的に見るように努めている。	○	今年度より、毎月のケース記録を実施する事によって一人ひとりを総合的に見られるようになって来た。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	計画作成者中心に毎月モニタリングを行い、サービスケア更新時にはご家族にも出席して頂き、カンファレンスを開催している。	○	入居者の何人かが特養のシーツ交換を手伝いに行ったりしているが、今後も苑内だけに留まらず社会性をなくさない為の介護計画にもしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	個人に変化が生じた場合はすぐにご家族と共にカンファレンスを開き、新たな計画を作成している。	○	病院の医師とのカンファレンスの内容の記録を独自に作成する必要がある。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録は毎日記入しており、毎月のモニタリングに活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	併設している施設・事業所からの入居時、また反対の場合も情報を提供し合い、その都度、柔軟な支援を行うようにしている。	○	入所の際は出来る限り地域の方を優先にし、地域に還元する為にも、日常的に地域で、認知症で悩んでいる方々の情報も把握していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				

ユニット あかね

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	同法人のボランティアひよこの会の方々が行事の度や毎日の料理の手伝いやピアノの先生が音楽療法をしてくれたりしている。また、近隣の幼稚園・小学校・中学校の生徒もボランティア活動に来苑してくれている。	○	今年度は雪祭りなどで、法人以外のボランティアの活用もさせていただいた。また、職員もボランティアとして活動する事によって繋がりができたので、今後もこの様な活動もしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のサービス業者に協力して頂き、見学等をさせていただいた。	○	今後は地域の他のケアマネジャー等との話す機会を儲け、他のサービスの内容をもっと知っていく必要がある。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	2ヶ月ごとの運営推進会議に於いて家族会にも参加していただいたり、率直な意見をもらい協力してもらっている。	○	実際に運営推進会議の他にどんな協働があるのか知って行きたいと思う。
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	提携している医療機関の医師や看護師には体調に変化があった時は電話で相談したり、往診にもすぐに来てくれている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	地域の精神科の医師との連携が出来ており、利用者の認知症の症状が低下してきた時は常に相談に乗って頂いている。	○	医師や看護師にもカンファレンス等に参加してもらったり、認知症に関する勉強会にも参加して頂きたい。
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所に看護師が居ない為、特養の看護師に点滴を頼んだり、医療面での相談に乗ってもらったりしている。	○	今年度は医療連携体制をとって行き、医療面での充実を図りたいと思っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	提携病院に入院施設もある為、入院時は常に状況を連絡してくれ、出来るだけ早期の退院をこちらも望んでいる事を理解している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	家族全員とは終末期に入った場合の話し合いは成されている。いよいよ重度化になった場合は早期に終末期のケアプランを作成し医師・家族との話し合いも繰り返し、その都度ケアプランを作成して職員全員が周知している。	○	終末ケアのビデオを見ながらの勉強会も行っている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	毎月の会議に於いて、必ず重度化になっている方の今必要な事を確認し、今後の変化に備えている。	○	上記にも記したが今年度は医療連携体制をとって行きたいと思っているので、看護師に、カンファレンスにも参加してもらい、かかりつけ医の指示や意見もケア計画に入れて行きたい。
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	特養に変わる方が今まで2名居たが、特養に細かな情報を提供し、また転居後も変わらない介護を提供してもらっているか確認している。	○	利用者にとって負担のないように配慮する様に努める。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	言葉掛けや対応に関しては日頃から十分に注意し定着している。記録の保管場所も外部から見えないところに保管している。	○	男性職員が多い中で、入居者のプライバシーや誇りをどのように維持していく事が求められるか十分に検討する必要性を感じている。

ユニット あかね

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	できることは自分で行って頂くことをモットーに支援している。本人を励まし、納得して頂くように話をし、自分の人生は自分で決めたいと思うのが当たり前のことなので、職員も自分勝手の介護にならないように日頃気を付けている。	○	一人ひとりが自己決定できような支援を常に考え、その中で自分の意思を表わす事ができるような関りをしている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースにあった対応をし、入居者に振り回されるくらいがいいと思っている。	○	職員が4名かわったことよっての入居者の微妙な変化を見逃さず、一人ひとりとの関係を早く築くようにしていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	現在は美容師に月1度来苑してもらっているが本人が意に添わなかったりする場合は送り迎え付きの美容院も確保している。	○	衣類も出来るだけ本人と買いに行くようにし、本人の嗜好を大切にしている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	動ける方5名が毎日食事の手伝いや準備・後片付けを行ってくれている。	○	5名の関係が難しく、今までは準備と後片付けだけは毎日行っているが食事作りは職員で行っていたが、今後は出来る事がまだまだ残されているので、小さなトラブルがあってもどんどん行ってもらおうと思う。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	たばこを吸う方はいないがおやつ・お酒・飲み物は好きな時に飲みたい・食べたいを自由に言える環境ができています。	○	バイキングに行ったり、回転寿司に行ったり、自由に行きたい所に外出している。又、外食が無理な方の為にも、施設内で居酒屋形式にしたり、バイキング形式にしたりしていろいろ趣向を考えている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンは把握できており、介助が必要な方は個々人の排泄時や表情を読み取りながら支援している。		

ユニット あかね

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	4名の方が毎日入浴希望があるので、順番に関しては交代で入る事になっている。またその他の人に関しても訴え時に4人が入らない午前中や夜間に入ってもらっている。	○	4名の方が毎日同じ時間の入浴を希望なさっているのですが、その他の方の希望をその時間に入れるのが難しい状態がある。時間帯に関してはその都度話し合い行っているが少しずつでも時間帯にこだわらない様にしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	自由に居室で過ごしたり、フロアで過ごしたりしている。また、訴える事が出来ず、移動に介助が必要な方については表情を見ながら休息して頂いている。	○	夜間の安眠には重点を置いている。今後も夜間の安眠状態が損なわれてきたら早めの対応に心がけ原因を考え夜間逆転にならないよう支援する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの好きなことやしたい事を介護者が決め付けず、日々引き出す努力をしている。また、個々人に合わせた役割はほぼ定着しているが、常に職員はできること、出来なくなってきたことを見極めていくことを徹底している。	○	現在行っている事意外にも、もっと引き出し張り合いのある生活を送って頂きたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	そのような力が残っている方は、自分のお小遣いは自分で管理し日々買い物等で自由に使っている。また、すぐにどこにしまったか忘れてしまう方も買い物に行く前に、毎回一緒にさいふを探し、買い物に参加して頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	冬の間でも本人の希望に添って出かけている。また、気候が良くなれば、毎日のように公園に散歩し、ドライブが好きな方々を連れて遠出も頻繁に行っている。	○	現在も個人的に行きたい所があれば職員と1対1で出かけているが今後も職員体制の充実を図り、個人でも出かけられる体制をとって行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族にも協力してもらい、常々行きたいと思っていた遠くの兄弟のところにいけた方も今年度1名おり、今後もこのような支援を継続して行きたいと思っている。	○	ボランティアの体制も充実しているので、遠出や1泊旅行も可能になってきている。

ユニット あかね

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は、日常的にかけている。手紙もご本人が書くことが出来なくなっている方は本人と一緒に文面を考えながら、職員が代筆したりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	食事時に来苑された方には一緒に食事をして頂いたり、常に歓迎の気持ちを表わすように徹底している。	○	家族の来苑が一番利用者にとってうれしいことなので、いつでも気楽に来苑してくれるように常にご家族には声を掛けている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関しては、特養とも合同で勉強会も開き全職員が理解している。家族の同意書をとって止む終えず拘束をしなくてはならなかった方も現在は一人も居ない状態である。	○	目に見えない言動・薬などの拘束にも十分気を付け一人ひとりの言動を抑圧していないかを常に考え援助している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	外に出て行こうとする方もいるが日中、鍵をかけることは全くしていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	今年度を新しい職員が増えたこともあり、特に徹底して安全の配慮には指導をおこなっている。	○	自分を過信することなく常に利用者の居場所の状況把握に努め自由に安心して過ごせる環境づくりに取り組んでいる。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	現在は異食がある方はいないが、刃物など危険物は夜間のみ鍵のかかる所に保管するようにしている。		

ユニット あかね

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を 防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に 応じた事故防止に取り組んでいる。	毎月、リスク会議を開き、今後も事故のないように取り組ん でいる。	○	毎月のリスク会議は継続していき、リスクの勉強会も開き、事例発表 をして見たい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全て の職員が応急手当や初期対応の訓練を定 期的に行っている。	各階の責任者にはAEDの研修に参加させたりはしたが、 今年度の新人にはまだ初期対応の訓練を行っていないの で行いたいと思う。	○	年に2回は特養と合同でも良いので、救命講習を行いたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を 問わず利用者が避難できる方法を身ににつ け、日ごろより地域の人々の協力を得られ るよう働きかけている。	火災発生時の避難訓練は2度行っている。地域の人の協 力体制に関しては、今後の課題である。	○	火災訓練だけでなく、地震時の避難訓練も来年度を行って行きたい。 また、地域の人たちの協力をえられるような働きかけを町内会や催し ごとに話していきたい。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家 族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切 にした対応策を話し合っている。	家族会では総会時に毎年リスクに関しての話し合いをして いる。一人一人に関してはその都度連絡し、話し合いの場 を設けている。	○	リスクに関しては一人ひとりのご家族と常日頃じっくり今後ありえる可 能性を話、ご家族の意向をはっきり明確にしていけることが、求められて いると思う。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に 努め、気づいた際には速やかに情報を共 有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックの他、体調の変化や異変があった 場合は職員間で話し合い主治医に連絡し、指示をもらって いる。	○	心身の状態の変化を見逃さない為に日頃の利用者の状態の把握に 努め、変化にもすぐに対応できるように緊急時対応のマニュアルをも とに勉強会を行っていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量について理解 しており、服薬の支援と症状の変化の確認 に努めている。	担当がすべて把握し薬が変わったり、服薬状態が変わった りした場合は日誌報告や連絡版に貼る等して全ての職員に 分かるように徹底している。		

ユニット あかね

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	オリゴ糖・ヨーグルト・プルーンなどで対応し、毎日のリハビリ体操や天候の良い日の散歩にはこころ掛けている。	○	便秘の解消のリハビリを特養のPTにも聞いてみて、イ子なってみる。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	歯科往診時の指導を受け一人ひとりの状態を把握し毎食後のうがい出来る方は必ず自分でおこなっている。出来ない方に関しても介助、又は見守りで行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取量は全員チェックし栄養補助食品などで補ったり、好きなものを出し食べていただいたりして一人ひとりの状態を把握している。	○	重介護の方が増えてきているなかで、特養の栄養士との連携を図り、勉強会をしていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関しては徹底して予防している。	○	感染症がはやる時期には必ず会議に於いて再度確認することを徹底する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎食後は必ず食器類は消毒し、食材に関しても国内産や無添加のものを使用するようになっている。	○	食事の手伝いをしてくれる利用者は必ず、酸性水での消毒を行うことが定着している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	常に玄関は開放しており、花壇や畑をつくり近隣の方々も気楽に立ち寄って行ってくれている。	○	今年度は近隣に住むお年寄りの状態を把握して、気楽にホーム内にも遊びに来ていて抱くような取り組みをして行きたいと思っている。

ユニット あかね

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食 堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不 快な音や光がないように配慮し、生活感や 季節感を採り入れて、居心地よく過ごせる ような工夫をしている。	季節の花や旬の食べ物の提供によって季節感を損なわな いようにしている。	○	声を出す方が2名ほどいるため他の利用者が負担にならないように 配慮しなければならない。声を出す時の原因を取り除き、出来るだけ 声を出さないように1対1の対応をするなどして他老への配慮に気を 付けている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所 づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気 の合った利用者同士で思い思いに過ごせ るような居場所の工夫をしている。	一人ひとりが居心地の良い場所があるように本人の状態に 合わせて、フロアーを4箇所に分け自由にその日の気分 にあわせて居る場所を本人に任せている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家 族と相談しながら、使いなれたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている。	常にご家族と相談しながら、今まで使っていたものはそのま ま持ってきてもらったり、居室に関してはご本人の思い通り にして頂いている。	○	本人が居心地良く過ごすためになにが大切かを常に職員間で話し合 い一人ひとりがリラックスして生活してもらえるような支援を目指して いる。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないように配慮し、利用者の状況に 応じてこまめに行っている。	各居室に換気扇を設置し、温度計や加湿器も必要な方に は置いて頂いたり、洗濯物で湿度を調整したりしている。気 温に関しては職員が夜間・日中に訪室し本人と一緒に温度 調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している。	その時の利用者の状態に合わせて手すりなどの設置に気 を付けている。	○	今後も利用者の状態に合わせて安全で自立した生活が送れるように その都度必要な事を考え実施して行きたいと思っている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している。	常に出来る事出来ない事を職員が見極め、その日によって 状態が代わる方もいるので、すぐに決め付けてしまわず、 出来る事は自分でできるだけ行ってもらうように声掛けなど を工夫し支援するようにしている。	○	今年度は、あかねはもう一度初心に返ってできる事、できない事を見 極める為に個々に深く関わる事で、本人の思いを引き出しながら、混 乱や失敗を極力防ぐように個人に合わせた声かけをして行きたいと おもっている。

ユニット あかね

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	車椅子でも対応できるように花壇以外にもプランタンの花を外のテーブルに置いて毎日水をあげてもらったり、野菜の収穫をしてもらったりしている。	○	ベランダ前や2階の踊場にもプランタンを置き、花の好きな方の為に工夫したいと思っている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない
【特に力を入れている点・アピールしたい点】 （日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）		